

# 法 蔵 報恩講号 352号

御門徒各位様、公私共御自愛ご精励の段、心よりお喜び申し上げます。今年も、お盆が過ぎ報恩講の季節がやってまいりました。何かとご多用とは存じ上げますが、真宗門徒にとつて一番大切な法要である報恩講に、ご家族、お友だちをお誘いの上お越しくださいますよう御案内申し上げます。

## 二〇二一年（令和三年）度 報恩講 日程

○ 九月十二日（日）

午後一時三十分より 大逮夜勤行・法話（二席）

午後四時より 歎異抄拝読

初夜勤行 法話（一席）

○ 九月十三日（月）

午前七時三十分より 晨朝勤行・法話（一席）

午前十時三十分より 御満座勤行・法話（一席）

布教使 黒萩昌師（蘭越町 法誓寺）

二〇二一年（令和三年）度

順信寺報恩講執行委員長

山本三男

順信寺住職

禿 覚英

左記の日程で報恩講を執り行う予定ですが、新型コロナウイルス感染症状況によりまして、日程が変更されることがあるかと思ひます。御理解の程

よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症下で二度目の報恩講となります。例年行ってきた形に戻したいのですが、なかなかそのような状況になりません。今年も誠に残念ですが献灯献花式は中止させていただきます。お勤め（勤行）をして、お話を聞くという基本の形を中心に行わせていただこうと思ひます。ただ順信寺の報恩講は順信寺の御門徒が集まって力を合わせて行うものだと思ひますので、よろしくお願いいたします。

今年の布教使さんである黒萩先生は、順信寺で初めてお話ししていただきます。このような状況下でもありますので、先生の歩み、生き方、真宗の頂き、願いをじっくりと聞かせて頂きたいと思ひます。御門徒の皆様のご参加お待ちしております。

『・・・人生において本当に大切なことについては「コロナだからやらない」ではなく、「コロナだからこそどうやるか」と知恵を絞る時期に来ていると私は考えています。・・・』  
（植田智行 名古屋御坊第660号より）

頭を絞り、ウロウロし、相談し合つて、行つて参りたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

「人に生まれて、人を超えて人になる。人に生まれたら、人を超えるような教えに遇わないと人になれないのです。」  
（伊藤元）

### へこ連絡

\*今年の炊事当番は東・南町等の方面の御婦人の方々です。よろしく願ひいたします。ただこのような状況下で、多くの方にはお願ひできないと思ひますので、もし声がかかりましたらご協力いただけますと幸いです。

\*世話委員さんを通して、報恩講の御懇志を、お願ひ申し上げます。何卒よろしく、お願ひ申し上げます。

\*8月5日午後一時より、おみがきものをしていただきました。

駒形直美さん、山本多美子さん、山川幸子さん、黒田キヨ子さん、鳥羽澄子さん、野口恵美子さん、西野寿子さん、木村富美子さん、駒形直美さん、西沢恵津子さん、吉田道子さん、村田妙子さん、岡部節子さん、金子信子さん、禿優子、禿和枝、禿朋隆。来年もまたよろしくお願ひいたします。（順不同です）。

ピカピカのお内陣でお盆を迎えさせて頂きました。また、報恩講を迎えさせていただきます。誠に有り難うございました。

## 順信寺の予定

☆9月3日午前8時30分頃より、報恩講を迎えるにあたりまして大掃除を行いたいと思います。ご奉仕よろしくお願ひ申し上げます。

・九月二十三日（木）午後一時より 秋季彼岸法要

（お彼岸は九月二十日から二十六日までです。）

・九月二十八日（火）午後一時より 親鸞聖人御命日のお参り

・十月十二日（火）午後〇時より 定例法話会

布教使さんは、まだ決まっています。最初にお参りをして、その後住職特製の美味しいカレーライスを食べ、一時頃より、法話を2時半頃まで聞きます。コロナ禍の中、感染に注意して行って参りたいと思っています。どうぞ、皆様お誘い合わせの上お越しください。途中から参加されてもかまいません。お待ち致しております。

・十月二十八日（木）午後一時より 親鸞聖人ご命日のお参り

\*今年も静かなお盆でした。しかし、コロナ禍だからこそ人間は何を大切にしなければいけないか自分自身に確かめる時、それがお盆だったと思います。来年もまた、人間の温かさを頂く時を過ごしたいと思えます。今年も万灯会を無事行うことが出来ました。二十程の方が歌登大橋に来てくださいました。とても綺麗でした。

\*9月、10月は他のお寺の報恩講に若院が出かけることになると思います。お参りには住職が伺うことになると思いますので、よろしくお願ひいたします。

\*順信寺にある本は、どうぞお持ちになっってお読みください。いつでもお申し出ください。

人は「正義」に立つとき 最もいやらしい面がでる

「私はそれほどできた人間ではない」。そう思っているのは自分のところに余裕があるときだけで、駄目な自分を認めたくないときが必ずきます。そんな自分を素直に認めればいいのに、それができません。素直になるどころか、力のなさをごまかせるだけの何か「確かなもの」を求めてしまうのです。それが正義なのかもしれません。正義は厄介です。正義に立つと、自分がまるで万能な存在のように見えてきます。私は正しいのだから、みんなは私を責めるわけにはいかないと、自分の至らなさを冷酷さに目が向かなくなり、どうしようもない自分をほったらかしにして、「私は正しいのだ！」と粹がつて。そして、恥ずかしげもなく他を責めるのです。やがてそこに争いが起こります。

ある先輩に、「人間は正しいという所に立ったとき、その人の最もいやらしい面が出る」と教わりました。さらに悪いことには、そんな嫌な自分に気づかないのだと。なぜなら自分は正しいと思っているから。幾度、この言葉を思い出したことか。大切な先生に教えられました。「正しいという字は一の下に止まると書く。自己を正すという事は、これでいいのかと一度立ち止まることだ」と。それが合掌の姿なのでしょう。

真宗会館 言の葉カード 文月 大谷中・高等学校講師 乾 文雄氏  
（大成寺だより No.31 2021, 7, 29より）

蛇足ですが、そう言えば「人は得意なもので失敗する」と言っていた私の先輩を思い出しました。

・ 忠峰コーナー

「夏の蝶 野菜畑を 舞い飛んで」

「ナナカマド 色づき始め 秋を知る」